

【創刊の辞】

現在、村上春樹文学は50以上の言語で翻訳されグローバルに享受されており、「世界文学」と言われる事も増加した。そのような流れに伴い村上春樹文学のアダプテーション（翻案）も多くのメディア（映画・舞台・漫画・挿絵本・アニメ等）で盛んに行われ、日本人以外の翻案者も多く関わっている。かつてアダプテーションは原作に対して二次的であり、価値が劣るものとして捉えられてきた。しかし、2000年以降「創造的および解釈的に置き換える作業」（リンダ・ハッチオン『アダプテーションの理論』2006・邦訳2012）といった創造的行為と再認識され、積極的に研究が進みつつある。そうした中で、グローバル規模で日本人以外の翻案者が関わる村上春樹文学のアダプテーションの増加は、アダプテーション研究においても注目すべき現象である。

このような状況において、発起人は2019年11月から村上春樹とアダプテーション研究会を立ち上げた。本研究会では、日本文学研究の枠に留まらず、映画学・比較文学等の研究者や村上春樹に関心のある読者とも研鑽を重ね、学際的な方法論で村上春樹文学研究・アダプテーション研究に取り組み、月1回の研究会活動（Zoom研究会）を行っている。

本誌（『村上春樹とアダプテーション研究』）は、村上春樹とアダプテーション研究会の機関誌として創刊した。本誌が村上春樹研究とアダプテーション研究の発展に寄与できる場となることを祈念しつつ、多くの読者からのご意見・ご批評を賜れたら幸甚である。

発起人：山根由美恵（山口大学）